

# 安全経営あいち 推進大会開催 2025年1月27日



小林局長



愛知労働局 労働基準部長  
高橋 嘉寿満



松井課長

## ■大会概要

- 愛知労働局（小林洋子局長）では、愛知労働基準協会等の協力により1月27日「安全経営あいち2024」をNiterra日本特殊陶業市民会館（名古屋市中区）で開催した。
- 同局YouTubeチャンネルライブでのライブ配信も行った。（ライブ配信は同局HP内アーカイブにて視聴可能）
- 参加者数は会場約500人ライブ配信視聴者約200人。
- 本大会は一昨年度から3カ年計画で企画されたもので、サブタイトルを令和4年度の「出発(たびだち)」に続き、令和5年度の「出会(つながり)」、今年度は最終回として、「企業の飛躍にむけて」をテーマとし、企業の飛躍に必要な様々な要素は、安全の向上にも必要な要素であり、企業を成長させる取り組みと安全の向上は一体であることを、経営者の方をはじめ多くの方に共感を与えることを目的としています。

## ■主催者あいさつ（小林局長）抜粋

安全経営あいちの理念には、現場の実態を把握し、アセスメントを行って改善を進めていくリスクアセスメントのプロセスは、安全の向上だけではなく、生産性や品質・環境などの向上の際にも必要となる共通のプロセスです。

「安全」は生産性や経済性とトレードオフの関係にあると思いがちですが、決してそうではありません。

経営全体の最適化を図っていくためには、生産性や品質・環境、安全などのPQCDSMEについて、その向上を図るプロセスを一体的に行うことが効率的であり、その結果、企業価値向上への取組みは、同時に安全の向上にもつながるものになります。

そして、PQCDSME向上の一体的な取組を進めるうえでは、経営トップの強い意思表示が必要となります。

そこで今回は、経営者様へのインタビュー動画を紹介し、企業の飛躍に必要な様々な要素は、安全の向上にも必要な要素であることを共感していただきたいと思います。

企業価値向上へのヒントが見つかるはずですので、ぜひ、ご期待ください。

※全文は「局長あいさつ文」参照

## ■企業価値の向上にむけた取組紹介

案内人がインタビュー動画を使って企業価値向上の取組事例を紹介。

第1部では、「新たな価値創造の旅へ」と題し、経営者の企業成長に向けた考え方や思い、実際の取組事例をインタビュー形式で動画にて紹介し、案内人が解説します。

● 案内人：豊田労働基準監督署 安全衛生課長 村木 豊

● 概要

- 仕事に誇りをもち、やりがいを感じる方が増えていくことで「イキイキとした職場」が形成され、それによりエンゲージメントが高まること。
- エンゲージメントが高まることにより働く仲間がともに成長し、さらには企業も成長する理想的なサイクルが生まれること。
- 様々な課題をポジティブな輪の中に持ち寄ることができれば必ず収益向上にもつなげること。

これらの取組みを進めるには、現場の実態把握が必要不可欠であり、リスクアセスメントを進めることで現場の実態を把握が可能。さらに安全以外の品質や環境など様々なリスク管理にも活用できる、この考え方を愛知労働局では、この大会の名称にもなっている「安全経営あいち®」として提唱しています。

## ■トークセッション

第2部では、経営者、人事部責任者、安全衛生部署責任者をパネリストとして招き、「安全経営あいち® ～企業価値向上に向けた取組み～」をテーマにトークセッションを行います。

- タイトル：「安全経営あいち®」
- 登壇者

コーディネーターは半田労働基準監督署 安全衛生課長 松井賢介が務める。

パネリストは、

製造業から株式会社F T S 取締役社長 磯部利行氏

第三次産業から社会福祉法人サン・ビジョン 理事/本部長 富樫拓也氏

建設業から株式会社伊藤工務店 安全環境本部部長 神谷泰生氏の3人

- 全体構成：インタビュー動画を上映後、パネリストが事例に対する賞賛と解説を行う形式。
- インタビュー動画は3事例

企業の成長につながる3つのキーワード「イキイキとした職場」「みんなとともに」「収益向上」をテーマにトークセッションを行い、「安全経営あいち®」のPQCDSMEの視点を組織全員で取り組むことの大切さを再認識する。

参考（パネルディスカッションの概要）

① イキイキとした職場（⇒エンゲージメントの向上）

企業と社員が同じベクトルに向かって進むことが企業の成長のカギであり、そのための環境整備や社外への発信が重要。これにより、社員のエンゲージメントが向上すれば、社内外にも良い影響が生まれるだけでなく、健康を含む大きな意味での安全の向上にもつながっている。

① みんなとともに（⇒部門間の連携・コミュニケーションの向上）

企業の成長には、トップの経営ビジョンに対する社員への明確なメッセージや部門間の連携が必要である。そして、部門間とのコミュニケーション向上には、人材交流や情報共有などを通じて相互理解を深めることが必要であり、安全においても生産性や品質などの視点や情報を持ち寄り進めていくことが同様に必要であるといえる。

② 収益向上

現場の本来あるべき姿（標準）を作り、それを維持することが会社の利益を生むベースである。そして標準には4S活動など場の整備やルールの整備が必要で、これがないと正常・異常若しくは変化にも気づくこともできない。安全も同様に、災害の多くは異常若しくは変化のタイミングで発生している。つまり安全管理のベースにも標準が重要。

## ■ロビー展示

会場ロビーでは、

- 大会プログラムで紹介しきれなかった企業価値向上のための3事例を上映展示。
- 安全経営あいち<sup>®</sup>への道を紹介。（リスクアセスメントの普及促進から安全経営あいちの提唱まで、皆様とともに愛知労働局が歩んできた道のりを展示）
- 改善事例を紹介
- 大会参加者から想い、意気込み、大会の感想などのメッセージをサインボードへ寄せ書きを募集。

## ■大会宣言

最後に、愛知労働局労働基準部長の高橋嘉寿満氏が「企業の飛躍に向けて 大会宣言」を読み上げ、推進大会は終了。